

令和2年度 奈良県防災士会総会

本年度の総会は新型コロナウイルス感染拡大防止と会員の皆様の安全の観点から、一堂に会する審議方法でなく、県担当課が推奨する NPO 法に基づいた「書面議決・電磁的方法による表決・表決委任」を活用（定款第 29 条適用）し、令和 2 年 5 月 24 日（日）に最低限の出席者で開催されました。

参加者は、必要者 3 名（議長、議事録署名人 2 名）、司会 1 名（書記兼務）、議案提案者 4 名（理事長、事務統括、経理担当理事、監事）の計 8 名で行われました。

正会員 136 名中、110 名出席（出席者 8 名、委任状 102 名）で総会は成立、すべての議案について賛成多数で承認決定されました。

令和2年度 第1回理事会開催について

令和 2 年度 第 1 回理事会において、定款第 14 条の 2（理事長及び副理事長の互選）に基づき、理事長に末田政一氏（奈良市）、副理事長に奥田英人氏（橿原市）、古瀬博之氏（奈良市）および植村信吉氏（三宅町）を選任し、就任を承諾されましたのでお知らせいたします。なお、植村前理事長は新体制の相談役として、副理事長を兼務していただくことになりました。

〈末田新理事長あいさつ〉

この度の理事会で新しく理事長に選出いただきました末田政一です。

地震や集中豪雨が頻発し、新型コロナウイルスも収束の兆しが見えない中で、身の引き締まる思いであります。地域の防災力向上を目指して本会を発足された木本顧問と、防災協働社会の実現を目指して NPO 法人を設立された植村前理事長の意思を引き継ぎ、次世代へ繋いでいけるようにがんばります。

防災減災はコミュニケーションが大切です。地域での日頃の付き合いが、避難の際や避難所生活における助け合いにつながり、多くの方が救われています。

防災士は地域防災力向上を担う地域防災のリーダーであり、アドバイザーであるべきだと思います。

奈良県防災士会は、防災士一人ひとりのスキルアップと会員相互の交流と親睦を図る役目を担っています。新型コロナ感染拡大防止の観点から、多くの訓練や研修会が中止となり、懇親の場を持つことも難しい中ですが、私の得意とするコミュニケーションを活かして、お互いに顔の見える関係づくりを基本として進めていきたいと考えています。

前任者お二人の愛嬌路線のおかげで、奈良県防災士会是他県に自慢できるほど協力体制が出来ています。私もこの路線を継承し、「出来る人が、出来る時に、そして楽しく」をモットーに取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。





12/15 災害時の食について（川西町）

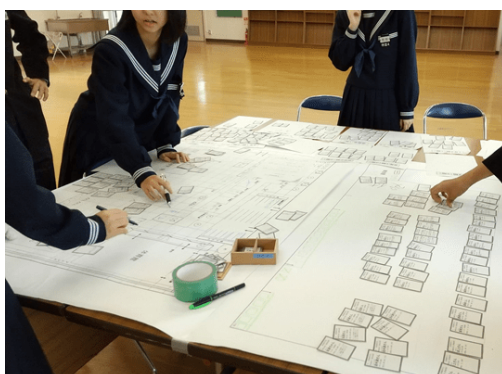


12/17 シェイクアウト、避難誘導訓練など（法隆寺）

活動報告

■2019年(令和元年)12月～翌7月末の活動 ※参加人数は、主催者発表による。

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
12/ 1(土)	広陵町防災士ネットワーク技術研修会 「避難所運営ゲーム(風水害HUG)」	広陵町	広陵町	30人
12/ 1(日)	葛城市地域防災訓練 「三角巾・簡易担架・新聞小技・応急処置・倒壊建物からの救助」	葛城市	葛城市生活安全課	660人
12/ 6(金)夜9時出発				
12/ 7(土)	災害支援ボランティア活動 福島県いわき市小川地区		奈良県防災士会	18人
12/ 8(日)	災害支援ボランティア活動 福島県いわき市下平窪地区		奈良県防災士会	18人
12/ 9(月)早朝帰着				
12/11(水)	災害ボランティア受援体制整備事業 「災害時の連携のためのワークショップ1日目」	奈良県	奈良県社会福祉協議会・奈良県	61人
12/15(日)	川西町3回連続防災講座 第3回 「災害時の食について考えよう」	川西町	川西町赤十字奉仕団	27人
12/15(日)	災害ボランティアセンター運営スタッフ 養成研修	北葛城郡	北葛城郡社会福祉協議会	—
12/17(火)	法隆寺防災訓練 「シェイクアウト・避難誘導訓練・自主防の取組・防災講演」	斑鳩町	法隆寺・斑鳩町	100人
12/18(水)	NHKラジオ第一放送「関西ホットライン」		NHK大阪放送局	—
12/18(水)	災害ボランティア受援体制整備事業 「災害時の連携のためのワークショップ2日目」	奈良県	奈良県社会福祉協議会・奈良県	22人
12/23(月)	災害ボランティア受援体制整備事業 「災害時の連携のためのワークショップ2日目」(2回目)	奈良県	奈良県社会福祉協議会・奈良県	30人
1/10(金)	都祁中学校 中学生(全校生徒)対象 HUG	奈良市	都祁中学校区地域教育協議会	99人
1/15(水)	NHKラジオ第一放送「関西ホットライン」		NHK大阪放送局	—
1/15(水)	大淀町学校教育研究会 会員研修会 「避難所運営ゲーム(HUG)」	大淀町	大淀町学校教育研究会	102人
1/16(木)	三宅小学校教員防災研修「防災講演」	三宅町	三宅町立三宅小学校	19人
1/17(金)	都祁小学校 防災教育学習「ドローン」	奈良市	奈良市立都祁小学校	240人
1/17(金)	防災研修会「防災講演」 「避難所運営ゲーム(HUG)」	奈良県	奈良県公立学校事務長会	80人



1/10 HUG（奈良市都祁中学校）



1/29 協定調印式（十津川村）



2/3 防災講演（五條市野原中学校）

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
1/26(日)	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	北葛城郡	北葛城郡社会福祉協議会	—
1/26(日)	防災講演 「水害に備えよう～大雨が降ると川西町はどうなるの？」	川西町	川西町市場自主防災会	40 人
1/29(水)	十津川村 「地域防災力向上に関する協定」調印式	十津川村	十津川村	12 人
1/30(木)	河合町自主防リーダー研修 「防災講演・簡易担架・ロープワーク」	河合町	河合町	28 人
2/2(日)	防災訓練 「防災講演・応急処置・災害時の食体験」	葛城市	葛城市協田区	23 人
2/3(月)	火災発生時の避難訓練 生徒対象研修 「防災講演および実技指導」	五條市	五條市立野原中学校	41 人
2/5(水)	三宅町自主防災会会議	三宅町		—
2/6(木)	災害ボランティアセンター運営者研修・1 日目	奈良県	奈良県社会福祉協議会	—
2/7(金)	災害ボランティアセンター運営者研修・2 日目	奈良県	奈良県社会福祉協議会	—
2/8(土)	斑鳩町自治会連合会懇談会 講演「地域における防災・減災対策等」	斑鳩町	斑鳩町自治会連合会	80 人
2/8(土)	避難所運営ゲーム (HUG)	桜井市	桜井市纏向地区社会福祉協議会	35 人
2/10(月)	県教育委員会保健体育課会議	奈良県	県教育委員会保健体育課	—
2/13(木)	日本防災士会本部理事会		日本防災士会	—
2/24(月)	王寺町防災士ネットワーク設立総会	王寺町	王寺町危機管理室	40 人
2/26(水)	NHKラジオ第一放送「関西ホットライン」		NHK大阪放送局	—
3/1(日)	地域の防災リーダーとの懇談会	生駒市	生駒市自治連合会	100 人
3/9(月)	「災害時の地域防災力向上に向けた協定」	十津川村	十津川村役場	4 人
～10(火)	による地区防災計画候補地の視察			
3/18(水)	NHKラジオ第一放送「関西ホットライン」	—	NHK大阪放送局	—
4/26(日)	デジタル簡易無線通信実験	中和、南和、都祁	奈良県防災士会	3 人
4/29(水)	NHKラジオ第一放送「マイあさ！ 関西」	—	NHK大阪放送局	—
5/3(日)	選挙管理委員会、放送作業	—	奈良県防災士会	—
5/20(水)	NHKラジオ第一放送「マイあさ！ 関西」	—	NHK大阪放送局	—
5/24(日)	奈良県防災士会 令和二年度定期総会	—	奈良県防災士会	書面表決
5/31(日)	葛城市防災士会総会	葛城市	葛城防災士会	書面表決
6/10(水)	NHKラジオ第一放送「マイあさ！ 関西」	—	NHK大阪放送局	—
6/18(木)	日本防災士会 令和 2 年度通常総会	—	日本防災士会	書面表決
7/1(水)	NHKラジオ第一放送「マイあさ！ 関西」	—	NHK大阪放送局	—
7/22(水)	NHKラジオ第一放送「マイあさ！ 関西」	—	NHK大阪放送局	—
7/26(日)	災害復興支援物品発送作業(靴下、トランクス)	三宅町	奈良県防災士会	7 人

■連続講座 平群町教育委員会主催

月/日(曜)	連続講座内容	場所	参加人数
6/6(土)	くらしに活かす防災講座第一回「災害に備える」	中央公民館	14 人
7/4(土)	くらしに活かす防災講座第二回 体験型「避難所開設訓練(コロナ対策)」	中央公民館	15 人

■奈良県安全安心まちづくりアドバイザー派遣

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
12/1(日)	エールフェスティバル 防災講演「防災・減災・縮災 安心に暮らしていくには」	下市町	真蓮会 YPC 作業所エール	100 人
12/15(日)	あやめ池南七・八丁目防災講習 (イメージ TEN 形式のワークショップ)	奈良市	あやめ池 あしびヶ丘自治会自主防部	26 人
1/16(木)	防災研修「避難所運営について考える」	奈良市	奈良県立奈良東養護学校 PTA	80 人
1/30(木)	郵便局長研修「普通救命講習」	北和地区	北和地区局長会	70 人
2/2(日)	災害支援勉強会「災害図上訓練(DIG)」	奈良県	奈良県歯科衛生士会	35 人
2/5(水)	ダイレクトロード (災害協力シミュレーションゲーム)	田原本町	九品寺きらきらサロン	28 人

■平群町連続講座①②

6月6日(土) 平群町総合文化センターにおいて、平群町公民館教室「くらしに活かす防災講座」の第一回が開催されました。本講座は全5回の連続講座で、第一回は「災害に備える」をテーマに、14名の方々に受講いただきました。奈良県防災士会からは4名の防災士が参加し、前半は過去の災害事例などから災害に対する「心構え」を学んでいただき、後半は「防災クイズ」に挑戦して現時点での知識や自宅の備えがどれくらいなのかをチェックしていただきました。



受講者からは「実例をおりまぜてお話して下さったのでわかりやすく、楽しくきくことができました。」や「知っているようでちゃんとわかっていないこともあり、話を聞くことができてよかったです。」などの感想が寄せられました。次回以降の講座に対しても、「災害大国日本、今は感染症対策も含めて、この講座を一つのきっかけに学習、考えてみたい。」と期待の声をいただきました。奈良県防災士会としても、新型コロナウイルスの影響により、新年度に予定していた研修や講演などが延期や中止を余儀なくされるなか、マスク着用、手洗い・手指消毒の徹底、「3密」を避ける環境づくりなどの感染防止対策を行った上で、本連続講座が開講できたことは大きな励みとなりました。 <報告者：小山英子防災士>

7月4日(土) 平群町総合文化センターにおいて、平群町公民館教室「くらしに活かす防災講座」第二回が開催されました。今回のテーマは体験型「避難所開設訓練(コロナ対策)」で、新型コロナウイルスの二次感染が危惧されるなか、早朝に平群町を大きな地震が襲ったとの想定で訓練は行われました。15名の受講生の皆さんにはいち早く避難してきた人として、避難所を開設してこれから避難してくる住民を受け入れる体験をしていただきました。後から避難してきた住民役の奈良県防災士会からの防災士6名は、乳児を連れた女性であったり、ヘビースモーカーの男性であったり、38度の発熱を訴える男性であったり、車椅子の女性であったりと様々な支援を必要としていましたが、受講生の方々が限られた環境のなかで献身的に対応されている姿はとても印象的でした。



避難所開設訓練(コロナ感染対策)

受講生からは「コロナ対策について、いろいろと想定しなければならぬ課題が多くあると感じました。」や「実際にシュミレーションすることで、何が足りないか、留意点などが明確になると思いました。」や「今回の実践・知識を地域に活かしていきたい。」などの感想をお寄せいただきました。これからも受講生の皆さんの知識アップ、実践力アップに少しでも貢献できるよう、スタッフ一同励んでまいりたいと思います。



避難所受付前で体温測定(コロナ感染対策)

<報告者：小山英子防災士>

広報誌の印刷用紙について

広報誌及び案内チラシの印刷は、業務負担の軽減のため「ネット印刷業者」を利用しています。最安値の用紙を選択して経費削減に努めています。ご理解をお願いします。

防災講演・研修へ講師派遣依頼を頂く皆さまへ

【重要】新型コロナウイルス感染予防対策について

平素は本会の活動に対しまして格別のご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

「緊急事態宣言」が解除されたとはいえ、新型コロナウイルスの脅威は未だ去っておらず、日常生活へ戻す努力が始まったばかりであります。

関係各位の皆さま方からは、避難所での感染症対策や避難所開設・運営訓練などの問合せを多数頂いており、私ども防災士会としてもその重要性は十分認識いたしております。

ただ、これまで通りの研修の進め方では密集・密接の発生が予測されるものもございます。したがって、ご依頼頂く関係各位の皆さま方には参加者数と会場収容人数にもご留意をお願いしているところであります。講演、研修などの開催による感染拡大は絶対に防がなければなりません。

そこで、本会に於きましても下記の通り感染拡大予防対策を講じさせていただきますのでお知らせ申し上げます。また、7月に入ってからには熊本県を始め九州全域、岐阜県、長野県で梅雨前線による豪雨で甚大な被害が発生しており、各地で避難所開設が発表されております。災害時における避難所での感染症対策についても厚生労働省 HP をご参照いただきますよう合わせてお知らせいたします。

会員の皆様及びご協力を頂いている皆様、また関係各位の皆様には大変ご不便とご迷惑をお掛けする事となりますが、何卒状況をご理解頂き、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 講師派遣事業は当面の間、自粛または規模縮小とさせていただきます。
2. 当会の活動中は、咳エチケットの実施、マスク着用での対面、一定距離の確保、手洗い・消毒の遵守や会場の換気など飛沫・接触などによる感染予防策を講じさせていただきます。
3. 派遣等に於ける直前キャンセル等へのご理解をお願い致します。
派遣担当者等が、突然感染や濃厚接触待機等になった場合は、実施日直前でも派遣等の停止をさせて頂く場合もございますので何卒ご了承承願います。
4. 今後の国や県を始め各行政機関からの発表ならびに社会情勢等により、対応策が追加変更となる場合も有ります。

参考 「避難所での感染予防対策情報（厚生労働省 HP リンク）」

災害時における避難所での感染症対策

被災した家屋での感染症対策

災害時に注意する感染症について

以上

災害支援活動①

台風 19 号被災地復興支援災害ボランティア(福島県いわき市) <防災士 大坂間弘明>

【期日】令和元年 12 月 6 日～12 月 9 日、現地活動日 12 月 7 日～12 月 8 日

【場所】福島県いわき市

【参加者】18 名(防災士 17 名/一般参加者 1 名)

奈良県防災士会は、12 月 6 日(金)午後 9 時に奈良を出発し、災害復興支援ボランティアとして福島県いわき市へ行って来ました。参加者は、大阪府支部 1 名、和歌山県支部 1 名を含め 18 名。また、現地で福島県支部 2 名の方と合流し、一緒に支援活動を行いました。

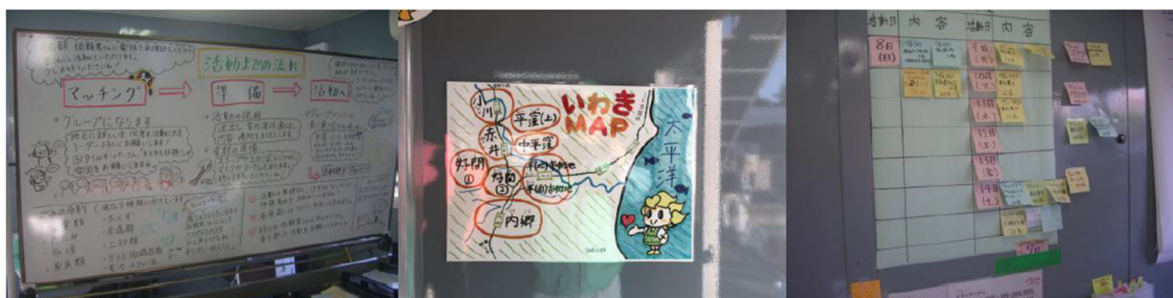
バスでの長距離移動となり多少不安もありましたが、さほど疲れもなく天候にも恵まれ、少しではありますが被災者の方への支援活動ができたと思います。私自身、昨年に続き 2 回目の支援活動となりましたが少しは事前の準備含め要領もよくなり無事に活動を終える事ができました。自分自身も幼少期は大型台風の度に川が氾濫(洪水)し近隣の住居への浸水、通学路の崩壊、橋が流されたりと、川の恐ろしさを経験している身です。激流化した河の音、濁った色、のみこまれる雰囲気は今でも鮮明に思い出せます。

さて、今回の支援チームは 4 名×4 班構成で編成されました。派遣先は皆同じ場所となり、各班の人員特徴を生かして作業分担を責任者、班長より指示がなされました。作業内容としては堆積物の回収作業、網フェンスの解体と撤去、流木瓦礫、堆積土砂の回収作業に従事。

場所は、1 日目は小川地区、2 日目は下平窪地区。ボランティアセンターから近隣サテライトまでは車にて送迎して頂きサテライトにて書類への記入、資機材をお借りして依頼先まで移動。

【12 月 7 日:1 日目活動】★いわきボランティアセンター到着

一部プレハブ 2 階建てのボランティアセンター(先月まではテントだったそうです。)



★派遣先

いわき市の小川町仲屋敷地区です。夏井川に面しており越水により大きな被害を受けた地域です。また、後川原地区付近は堤防が大きく決壊しており道路の欠損、陥没も多く見られました。

作業内容は、畑へ流れ込んだ流木・土砂ごみ、流入してきた藁の除去と境界に面した網フェンスの除去です。土砂、藁などは土嚢袋に回収し指定された場所へ積み上げる作業となります。流木類も同じ様に指定場所に積み上げて作業を行いました。福島県防災士会からも 2 名の方に合流頂き総勢 20 名で活動。一軒目の依頼を午前中に終え、午後からは、たまたまですが隣の敷地のお宅からの増員要請があり、午前中より作業されていた地元のボランティアグループと依頼主のご夫婦様と合流し午前中と同じく流木・

土砂ごみ、流入してきた藁を土嚢袋へ回収し積み上げる作業を引き続き行いました。倒木、流入木の枝も多く有り、撤去の順序と保管場所について考慮しながら作業を行いました。

作業を進めるなかで、改めてすばらしいと思った事です、今日まで知らなかった人々がみな自然と声を掛け合い息の合った連携が生まれ指示されなくても阿吽の呼吸といえますか先読みして率先して動く姿です。自らボランティアに参加される意識の高い方々ではありますが、あわせて人情味にあふれた皆さんでした。

【1 日目の活動様子】

作業開始！



作業完了！



午後からは合同チームで活動！



【12月8日：2 日目活動】

2 日目の活動先は、下平窪地区へ入りました。この地区の下平窪取水場が川の氾濫により被害を受けた事により水道の復旧が遅れていた地区です。依頼宅は堤防の決壊場所が目視できる程の近い場所のお宅で、発災時は川のようになって濁流が押し寄せるという状況下、何とか自宅の高所に避難して命は助かったという方の敷地内の泥の掻き出しと通路の整備です。

多くの土砂が流入し堆積しており、立派な庭木も土に覆われていました。水分を多く含んだ土は重たいので掻き出す事も土嚢袋に詰めて運ぶことも大変でした。最後は集積場所へ積み上げる作業もあり体を労りながら作業となりました。

今回の支援活動にて一番の喜びは、ご依頼主（家主様：ご婦人）が今回の水害にて水没し、わずかであるが何とか回収できた写真アルバムより自宅庭の満開の花の美しい庭園の写真を見せてくださいました。お話を伺いながら見事な庭に我々も素直に美しいと見惚れてご主人様とのなごりなど傾聴させてもらい、舅の供養になりますとお話し頂きお手伝い出来てよかったと思いました。

災害支援において色々な手段、方法があると思いますが心理的な支援も大きな役割であるのでお話を



サテライトから依頼宅まで資機材を持って徒歩で移動(20 分くらい)

聞けてよかったです。昨年ですがP F A(心理的応急処置)の研修を受ける機会が有りこう言う事かと思った次第です。

わずかな時間の活動ではありましたが出来る範囲で最大限の活動ができたと思っています。無事に終え帰宅でき安堵しております。

依頼内容を確認して作業開始です。土砂の除去作業を行い、整地しながら少しずつ元通りに。



がんばっぺーいわき



この度のボランティア活動においてご支援頂きました社会福祉協議会の皆様、現地ボランティアスタッフの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

最後に、台風被害にあわれた皆さまに心よりお見舞を申し上げます。

災害支援活動②

熊本へ支援物資を送付しました

先日、豪雨災害で甚大な被害が出た熊本県球磨村と人吉市へ、日本防災士会熊本県支部の宮下支部長が支援に入りました。県外のボランティアは新型コロナウイルスのため入れなく、生活物資も不足しているとのこと。

ひとまず、靴下 1,051 足、トランク 76 枚を 7 月 26 日に発送しました。



2020年7月11日 鹿児島空港よりレンタカーにて現地入りしました。天候は刻々と変化しており曇り、小雨、土砂降り、濃霧など不安定な状況です。幸い天候による通行止めは回避できたのですが、帰路の際峠道で激雨と霧によるホワイトアウトとなり恐怖と事故を覚悟した状況です。これまでも豪雨とか冬の走行で怖い思いをしていますが、比にならない位の体験で自然の脅威を改めて感じました。



さて、訪問現地報告ですが、途中物資を購入し避難所となっている旧高校校舎を訪問し受付等行い母と面会できました。ほっとした事は言うまでも無いのですが、救助され避難していることが分かっていた事、今の避難所が安心できる施設であった事、兄が早期対応をしてくれている為、落ち着いて面会できました。そういいながらも会うまで動揺していた事は否めません。

それでは家族、地域、知人について被災家族の一員として状況を報告します。

6月後半より頻繁に yahoo 防災情報にてアラートを受信する様になり、梅雨時期の長雨によるものだと思っていたのですが、7月3日の夜から様子は一転し今回の未曾有の災害となりました。7時過ぎ地元同級生 LINE グループで洪水により地域が浸水している、避難しているなどの情報が入り、同時に親からの電話。家も危険な状況で身の危険を感じ合羽を着て庭に出ていると。地域としても過酷で既に家屋の屋根しか見えない家があると聞きました。その家の方は行方不明となり、悲しい報告を本日受けました。自分の同級生であり地域の商店で、ガス店でした。避難場所の駅も一部形を残すだけで完全に流出してしまい悲惨状況。自分の家の地区の避難所公民館（集会場）も洪水で水没しています。

母親とは1時間後に電話するも切羽詰まった状態で、すぐに電話を切られました。その後はまったく連絡がつかない状態。家も地域もどうなったのか全く予測もつかず、不安で不安でニュースを見入る状況。翌日、見知らぬ電話から着信があり電話にでたら母親からで、自衛隊のヘリに救助してもらったとの事。

救出された状況については、自宅横に支川があるのですが砂防ダムを越水しており周辺家屋の浸水と崩落が発生し自衛隊の方に発見頂き、急降下してもらい救助されたとの事でした。大変運がよかったと思いますし、発見・救助して頂いた自衛隊の方には感謝しかありません。

自衛隊によって救出された避難先ですが、屋根のある屋外のスポーツ施設。（多分多面ゲートボール場？グランドゴルフ場）壁も無く、地面にブルーシートを張っただけの簡易の避難所（場所？）でした。2晩ここで過ごしたとの事。その後、今の避難所に移動となっています。自宅からは30数km離れた見知らぬ土地です。道路も寸断され地域全部が被災しており避難所も無いのが実情。



被災直後の避難所、出典：球磨村役場 FB

避難所となっている所は旧高校の学舎棟と体育館です。玄関に撮影禁止の看板がありましたので屋内の撮影は控えました。玄関に入ると受付ですが、手指の消毒、面会受付・体温測定を行い、避難場所の教室を教えて頂き入室。廊下には「携帯の充電コーナー」がありほんのわずかですが「ご自由にお取りください」のカップ麺などが置いてありました。掲示情報は、病院紹介、ペットの世話、部屋の掃除、トイレ掃除について書いてあるだけで他は目に入りませんでした。避難所として機能し始めたところだと思いますので、我々が訓練などで想定する内容とは程遠いものでした。

ただし混乱している様子はなく、スタッフの方がうまく運営されていると思います。母の避難している部屋は玄関近くなので、他の部屋や体育館などの状況は全く分かりません。

避難当時の新聞記事では教室にシートと椅子が置いてあるだけの状況でしたが、訪問時には段ボールベッドが設置されていたので環境は少し改善されています。

教室には母を含め 6 名の方が入室されており環境としては良い方です。同じ部屋には近所の方 2 名が同居されており話し相手がいる事は大きな事です。また、学校だけあってトイレも確保できており安堵しています。困り事は情報が全く入らない。テレビなどの設置は無い状態で教室から外をみて過ごす状況が続いています。訪問に際して携帯ラジオを持って行きましたので喜ばれました。ただ電波環境は悪く AM ラジオのみで、室内と言うこともあり FM 放送は全く入りませんでした。携帯の電波も 3G で普段の環境には程遠いです。母親はガラケーで電話する事が精一杯です。今回の災害と避難生活においてスマホとかタブレットとか情報ツールが使えない事は今の時代に避難生活するには厳しい現実があると感じました。コロナ渦で余計に人との接触が制限されているので各個人が情報を得るための術を身につける事も防災の一つとして必要と感じます。

避難者への支援としては食事の提供（基本的に弁当と汁物で金曜日にカレーがでたとの事）、飲料水、マスク、自衛隊の設置したお風呂です。食べ物が不足していることは有りませんでした。今回、自分で避難したのではなく救助されたこともあり、自分の持ち出し物はごくわずかです。大半以上の方が同じ状況でほんとうに身一つです。家財ごと無くされた方も多く同室の方もその一人です。訪問して私は何を話していいのかも分からず、ただ母の話を聞き持参したものを説明して渡すことが精一杯でした。母がうまく小分けしてくれてよかったです。皆平等とも行かず訪問する事も少しためらう気持ちが芽生えたのも事実です。

ここ数年の話ではありますが防災士という活動の中で、色々と情報を得ながら訓練や研修、災害地活動も行ってきました。そのおかげで、多少ですが冷静な思考と行動ができていますと思います。これまで係わって頂いた方々には感謝するとともに、今後もお力添えをお願いするものであります。

～自分が持参、購入したもの～

常温保存可能な羊羹、野菜ジュース、果物ジュース、栄養補助食品。ラジオ、爪切り、老眼鏡(度が合わず使用不可)、目薬、アルコール指消毒液(ジェルタイプ)、噴霧方消毒液、綿棒、冷エビタ、ホットアイマスク、袋、乾電池、ライト、筆記用具、その他

～面会して頼まれたもの～

市販の薬(胃腸薬)、便秘薬、時計、顔毛剃り、手提げ袋。

その他、小さい折り畳みテーブル（地べたで食事していたので：持ち込み許可は頂きました）

お薬手帳とか持ちだしていますが、残念な事に避難所に入られるお医者さんは薬の処方できないとのことで病院に行ってくださいと言われるそうです。急変とかで病院搬送されるぐらいでないと避難所で医療の提供は難しい事が分かりました。経過すれば変わるのかもしれませんが。

【被災地の様子＞被災地域画像；生まれ故郷を中心に】

避難所を離れて災害現場を見に。警報も出ていたので、行ける所までとなりましたが連日の各種報道の通り、道中洪水の跡が随所にみられ、市街地では必死に片付けされている様子を多く見る事ができました。瓦礫などそこら中、山積みです。通行止めとなっている所も多く、記憶の範囲で車を走らせ地元へ向いました。どんどん行くにつれ悲惨な状況で道路は挟られ、寸断し、橋も流され目的地へは立ち入る事も出来ませんでした。



実家は残ってる事は情報を得ていますが、まともに戻る事はできないと思います。新聞社の被害画像の公開情報を見たらもう何年かかる？復旧すらしてくれるの？と疑うレベルです。地域が本当に崩壊した姿をみた感じです。過疎化した限界集落が生き残れるのかと考えてしまいます。同じ地区の方が行方不明となり後に遺体で発見されました。非常に悲しく、やってられない感じです。生まれてから就職するまで育った土地、川と共存しこれまでも洪水被害は経過し対策を講じてきた地域ですが、図り知れない自然の脅威に、ただただ「何で！」と言いたいです。想定外と言えば叩かれる時代ですが、本当想像以上の雨量と洪水、河川氾濫となった災害でした。

警報がでたら まずは、命を守る行動を優先してください！！

自分は、地元に出向き何か災害支援をしたいところですが、コロナ渦の行動制限により容易に帰省もできない状況でものすごくはがゆい思いをしています。

訪問した際は事前に検査を受けコロナ陰性が確定しているのですが、そう何回も検査はできないし、いつ感染するか全くわかりません。PCR検査は現状が分かりますが、検査以降はすでにキャリアになりかねないです。抗体検査も同じで検査するまでに感染したかの判断ができるとの事ですが、これも検査日までのエビデンスしかない。感染予防をしながら毎日体調の変化について観察、注視するしかないのですが。無症状の方もおられる厄介な病気ですので腹立たしい。

近いうちにまた現地に行く事を考えていますが、日ごろの感染予防に徹する事になります。感染しない事を祈る次第です。



■令和2年7月豪雨災害被災地で頑張る各支部へ防災士会活動資金を！

本年7月、梅雨前線と低気圧の影響により、熊本県、鹿児島県、大分県を中心に激しい雨が降り続き、特に熊本県内では複数個所で球磨川が氾濫し甚大な被害をもたらしました。また、九州に続いて他の多くの地域でも広い範囲で河川の氾濫による浸水被害や土砂災害が発生しました。謹んで犠牲となった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染が懸念されている現在の状況下では、災害ボランティア活動を進めることで、感染を広げてしまう恐れがあります。とくに今回の被災地域は、人口に占める高齢者の割合も高く、感染の広がりが被災地の住民の命を脅かす事態を生じさせかねません。

奈良県防災士会では、できる限りの支援活動を行っていく決意を新たにしているところではありますが、ボランティアの募集範囲を県内・市町村内に限っていることから、現状では駆けつけることは難しい状況です。よって日本防災士会九州支部連絡協議会へ活動資金の支援を行いたいと思います。

会員の皆様のご協力を要請いたします。寄付・カンパをお願いします。当然、金額は問いません。被災地で頑張る防災士会九州支部連絡協議会へご支援をお願いします。

＜振込先＞ ◇ゆうちょ銀行

記号 14580 番号 26873491

名義：日本防災士会奈良県支部 読み：ニホンボウサイシカイナラケンシブ

◇他の金融機関からの場合

ゆうちょ銀行 四五八店（ヨングハチ） 普通 2687349

名義：日本防災士会奈良県支部 読み：ニホンボウサイシカイナラケンシブ

※この口座は災害支援専用の口座です。必ず、上記記載の口座へお願いします。

今後の活動予定

詳細が決まりましたら、改めてご案内いたします。

事務局からのお知らせ

奈良県防災士会のウェブサイトをご存知ですか？イベントのお知らせや、活動報告は、

「奈良県防災士会」で検索！

奈良県防災士会のウェブサイトでは、会員のスキルアップのため、県内で開催される防災訓練の情報をお知らせしていますが、新型コロナウイルスの影響で、現在見学案内は最小限に留めています。

会場定員の都合で予約制となります。見学を希望される方は、事前に事務局までメールで申込をお願いします。

投稿記事募集！

奈良県防災士会会員の皆さまからの、「災害復興支援」や「防災訓練」の活動報告をお待ちしています。当会のウェブサイト、Facebookページ、広報誌で公開可能なレポートをお寄せください。

●送り先 **mail@bousainara.com**

●テキストおよび写真（肖像権など差支えないもの）をお送りください。



奈良県防災士会のFacebookを公開し、さまざまな情報をアップしています。「いいね！」をよろしくお願いします。

「Facebook 奈良県防災士会」で検索

■発行日 2020年8月30日
■発行者 特定非営利活動法人奈良県防災士会 理事長 末田政一
〒632-0221 奈良市都祁白石町1192-190
■編集 特定非営利活動法人奈良県防災士会 広報部会

■E-mail mail@bousainara.com
■FAX 0745-61-1878
■ウェブサイト http://bousainara.com
■Facebook https://www.facebook.com/bousainara